

第18回広島保健福祉学会学術大会

今年度の学術大会は、11月2日に三原キャンパスにおいて開催しました。今回は11月3日から5日に開催されたアジア太平洋プレイバックシアター大会2017とのコラボ企画として開催しました。プレイバックシアターとは、観客が自分の経験や気持ちを語り、それをすぐに演じる独創的な即興劇で、国内外で、教育、子育て支援、地域づくりなどの目的で行われています。また、保健福祉学部作業療法学科では、学外実習後のセミナーで貴重な経験を共有するために本手法を取り入れています。

今回、学術大会のテーマを「保健福祉分野におけるプレイバックシアターの活用」として、作業療法学科吉川ひろみ教授による講演を行いました。教職員と学生の他に、海外からの参加者も聴講し、プレイバックシアターの効果をコミュニティ形成、教育、治療という3領域に分け、今後の展望についてディスカッションをすることができました。



〈第18回広島保健福祉学会学術大会の様子〉



〈アジア太平洋プレイバックシアター大会2017の様子〉

プレイバックシアターは三原シティカレッジ2018で講座を開講します！

本学教員で構成された「劇団しましま」が地域の方々とプレイバックシアターについて学ぶ講座は、2016年の開講以来多くの方が興味を持って参加しています。みんなで身体を動かしながら、楽しく表現やエクサイズを行っています。申込方法は、6月以降に本学HPでご案内しますので、ぜひご参加ください。



〈シティカレッジ2017の様子〉

広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

地域連携・産学連携

信金合同ビジネスフェア2017

広島県下の4信用金庫（広島信用金庫，呉信用金庫，しまなみ信用金庫，みどり信用金庫）合同の主催による「第12回広島県信用金庫合同ビジネスフェア2017」が、11月9日に広島グリーンアリーナで開催されました。

本年度は「魅力発信～新たな出会いが未来をつくる～」をキャッチフレーズにテーマゾーンが設けられ、本学は、他大学や公的機関等と共に「産学連携」ゾーンにブースを構え、地域の自治体や企業と共同で研究開発を行った成果や、地域貢献に資する研究内容の紹介、HBMS（経営管理研究科）の紹介を行いました。

出展内容としては、生命環境学部小林謙介准教授による「CO₂排出量などを評価するLCAを用いた製品・サービスなどの環境配慮」、人間文化学部馬淵良太助教による「メタボリックプロファイリング法を用いた食品の品質評価」といった研究やHBMSのパネル紹介を行いました。

当日は、多くの来場者が本学ブースに立ち寄り、事前に相談申請をした企業の相談もあり、多くの方に本学の地域貢献活動や研究内容をPRできました。



展示ブースの様子

自治体意見交換会

包括連携協定を締結している9自治体（7市1区1町）との意見交換会を、12月13日に広島キャンパスにおいて開催しました。包括連携協定とは、自治体と大学が様々な課題や事業に共同で取り組むことを目的に締結した協定で、本意見交換会は、この共同の取組みについて、それぞれの意見や意向、情報等を共有し、より効果的に連携し成果を創出する目的で開催しています。この共同の取組みの一つに、地域戦略協働プロジェクトがあり、その進捗報告とともにプロジェクトの計画や運用に関する課題等について意見交換を行いました。



意見交換会の様子

ミュージアムツアー

本学は、学生・教職員が県内の美術館・博物館を活用して優れた芸術・音楽・文化に触れることを支援するキャンパスメンバーズ制度に加入しています。11月18日にはキャンパスメンバーズ制度の利用促進と学生の学修を目的として、広島キャンパスの学生・教職員によるミュージアムツアーを実施しました。



広島県立歴史博物館にて

ミュージアムツアーでは、多くの学生が教職員とともに、福山市にある広島県立歴史博物館と、その周辺の文化ゾーンにあるふくやま美術館、福山城博物館を訪れ、それぞれ楽しみながら芸術・歴史・文化を学ぶフィールドスタディを行いました。

公開講座

「言語を通じて世界を知る」ほか

10月6日から27日にかけて、全4回にわたり広島市立大学との連携公開講座を開講しました。この講座では両大学の教員4人が、中国、台湾、日本、ケニアの言語から見える世界について講義を行いました。



植村広美准教授による講義

受講者からは、「現代中国の実情が分かった」「国字について理解できた」「隣国なのに知らないことが多いことに気づいた」「マサイの現実の姿と私たちの持っているイメージとのギャップを埋めるのには努力が必要だ」など、勉強になったとの感想が寄せられました。

後期は、このほか、歴史・文学・文化系として「日本語と琉球語・琉球方言」（廿日市市との連携講座）、「読み切り文学講座」（広島市南区図書館との連携講座）、「近世城下町成立の謎に挑む」（広島市宇品公民館との連携講座）、「くずし字に挑戦」、健康系として「健康づくりと運動」、「健康科学連続講座」、情報系として「情報学の今」、「ITパスポート試験対策講座」、「経営情報学連続講座」を開講しました。

研究紹介

『不思議現象』に関する認知心理学的メカニズムの実証研究

人間文化学部国際文化学科 教授 向居 暁

私は日常における人間の認知について研究している心理学者です。例えば、近年は、「占いが当たった」と信じたり、「運命の人だ」と感じたりすること、また、霊魂や幽霊の存在を信じたり、心霊現象を体験したりすることのような、『不思議現象』に関する認知心理学的メカニズムについて実証的に研究しています。このような非科学的な現象への信奉は、要するに、私たちの思考や記憶が不適切なために生じると考えられています。したがって、「証拠に基づく論理的で偏りのない思考」であるクリティカル・シンキングを適切に運用すれば、このような誤った思考や記憶を却下できるはずなのです。とはいえ、そう簡単には行かないのはみなさんご承知のとおりです。難事件を証拠に基づいて論理的に解決することで有名なシャーロック・ホームズの生みの親であるアーサー・コナン・ドイルでさえも、晩年は心霊主義にどっぷりつかっていたと言われています。実は、このメカニズムへの関与が仮定される要因は多種多様で、さらに、日本独自の文化的背景の影響もあり、まだまだ全貌をとらえきれていないのが現状です。今後、研究成果を蓄積し、人々が必要に応じて、不思議現象に対して「クリティカルに考えること」を支援する方法を考案できればと思っています。



映画祭のマネジメントモデルに関する実証研究

経営情報学部経営学科 教授 矢澤 利弘

コートダジュール地方有数のリゾート地カンヌをご存知でしょうか。多分、多くの方が「知っている」と答えると思います。では、皆さんはなぜカンヌをご存知なのでしょうか。おそらく、日本人にとっては、保養地としてよりも有名な国際映画祭が開かれる町としての知名度のほうが大きいと思われる。現在、私は映画祭を事例として、イベントを有効に機能させるためのマネジメントモデルに関する実証研究を行っています。映画祭というと、多くの映画が上映され、映画ファンが映画を見て楽しむという行事というイメージを持たれる方も多いと予想されます。しかし、映画祭の機能と役割はそれだけではありません。映画をひとつの商品として取引をするためのマーケットとして利用されていたり、映像産業の振興や映像文化の発展のためであったり、人材の発掘と育成のためであったりと、その開催目的は様々です。カンヌという地名が映画祭によって世界的に有名になっていることから分かるように、映画祭が地域ブランドの形成や観光による地域活性化の役割を担っている事例も多くあります。従来から、映画祭の研究は映画作品の評価といった人文科学的な視点からのものが多くを占めていますが、私の研究室では経営学的なアプローチで映画祭の分析・研究を進めています。



広島交響楽団 特別講義

12月18日に広島キャンパスで広島交響楽団特別講義を行いました。本学は広島交響楽団のキャンパスメンバーズ制度に加入しており、その特典の一つとして団員による特別講義を毎年開催しています。

今年度は「ファゴットについて」というテーマで、ファゴット奏者の廣幡敦子さんが、ファゴットの歴史、構造、音の出し方、音色、魅力など幅広い解説に加え、自身の音楽経歴、楽器への取組みを含めた日常について、演奏を交えながらお話してくださいました。ファゴットという楽器、その優しい音色、講師の音楽への取組み姿勢などについて学ぶ貴重な機会となりました。



庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

学術講演会

11月24日の2限目に、県立広島大学学術講演会を庄原キャンパスの大講義室で開催しました（本学主催、しょうばら産学官連携推進機構共催）。われわれ日本人はいつから日本列島に住むようになったのでしょうか？また、われわれはどこから来たのでしょうか？われわれ日本人のルーツに関わる、このような疑問について、遺伝子（DNA）解析によって研究している国立科学博物館副館長の篠田謙一先生を今回講師としてお招きしました。専門は分子人類学で、「DNAが語る日本人の起源」という講演題目で講演いただきました。講演では、まず、ミトコンドリアDNAやゲノム全体の一塩基レベルの違い（SNP）を利用して世界中の人々の系統関係を探る研究についてのお話がありました。その結果から、アフリカで生まれた現生人類がどのようにして世界中に拡散していったのかについての解説がありました。さらに、このようなデータと、考古遺跡から出土する縄文人や弥生人の人骨からのDNAデータを比較し、縄文人と弥生人と現代のわれわれとの遺伝的な関係がどのようなものであるのか、現代の日本人は遺伝的にどのように成立してきたのかについて解き明かしました。遺伝子やゲノムの研究は近年、急速に進展していますが、篠田先生はさまざまな一般講演やテレビ出演などのご経験があり、難しい問題を大変わかりやすく説明されました。学生・市民・教職員を含めて120名の聴講があり、学生、市民から質問も出て、知的刺激に満ちた講演会となりました。



庄原市民公開講座

10月28日、11月9、15、24日の日程で例年実施している庄原市教育委員会と共催の庄原市民公開講座『ふるさとを知る』を開講しました。庄原を知るという観点から、自然環境、歴史、地域ブランドについて本学講師が、そして学生から見た庄原の暮らしと

いうことで、庄原キャンパスの学生3名、院生1名が話をしました。延べ63名の受講がありました。初回は庄原キャンパスの大学祭、最終回は学術講演会の日に実施し、大学の他の事業との連携を図りました。また、「学生からみた庄原の暮らし」では、学生の率直な意見が聴講した市民の方に披露され、好評でした。来年度も実施してほしいとの声もいただきました。

回	演 題	講 師
1	植物から見る備北の自然と暮らし	生命環境学部 教授 入船 浩平
2	中国山地の鉄生産	人間文化学部 教授 鈴木 康之
3	学生からみた庄原の暮らし	県立広島大学 学部生・大学院生
4	和牛肉と世界基準の地域ブランド	生命環境学部 准教授 村田和賀代

庄原キャンパス図書館ツアー

10月30日、11月18日に本学庄原キャンパス図書館ツアーを庄原学術情報センターの協力を得て行いました。10月は広島県立庄原格致高等学校の生徒16名が、11月は庄原市立庄原中学校の生徒7名と同行した小学生1名が参加しました。高校までの図書館とは違う大学の図書館の機能や雰囲気を実感してもらい、知への関心、本学への理解を深めてもらうことが目的です。高校生たちは、本を借りるだけでなく、勉強するスペースがあること、情報検索ができること、DVDや漫画があること、飲食ができるスペースがあることなどに関心を持ちました。中学生は、本を借りるだけでなく、学習する場として、また、学習の息抜きの場として利用されていることに驚いていました。DVDや漫画があることも発見でした。また、11月の図書館ツアーでは、庄原キャンパスを知ってもらうために生命環境学部の西村研究室を見学し、様々な実験器具を見学しました。来年度の実施も予定しています。



図書館にある本の紹介中

研究紹介

高校入試を軸とした英語教育史研究

生命環境学部環境科学科 准教授 河村 和也

アジア・太平洋戦争終結後の大きな教育改革の中で、新制の中学校と高等学校は誕生しました。その発足期においては、高等学校の入学者を選抜する際に学力試験を行わないことが理想とされていました。当時の文部省が主導していたことですが、現在では知る人も少ないようです。



戦後10年ほどのうちに試験を実施することは当然視されるようになりました。しかし、「選択科目」と位置づけられていた英語が試験科目に取り入れられるまでには、相当に長い時間がかかっています。教育の中央集権化が否定されていた時代のことから、英語が導入されるまでの道のりは自治体ごとに実にさまざまで、今日にいたるまでその全体像は見てきていません。

私は英語教育史全般を研究テーマとしていますが、上記のことがらを踏まえ、現在は、新制高等学校発足期の入学選抜（いわゆる「高校入試」）に英語が導入された経緯を自治体ごとに明らかにするとともに、実施された試験の問題を収集してデータベース化することを中心的な課題としています。

高校入試への英語導入の経緯を知ることにより、当時の人々が英語をどのようにとらえていたのかが見えてきます。それは、わが国の歴史の中で繰り返されてきた日本人と英語との「愛憎劇」の一部を立体的に明らかにするものだと考えています。

我々の体を構成する細胞はどのように調節されているのか？

生命環境学部生命科学科 助教 松崎 秀紀

生物を構成する細胞は互いにコミュニケーションをとり、他の細胞からの信号を受けた細胞が増殖や分化、運動など適切に应答することで全体を維持しています。



この細胞が外部からの信号を受けてその働きを調節する過程ではタンパク質リン酸化反応が重要な役割を担っており、我々のゲノムには様々なタンパク質リン酸化酵素がコードされています。タンパク質リン酸化酵素の一つであるPKB（別名Akt, RAC-PK）は細胞増殖因子やホルモン、ストレスなどの様々な刺激により活性化され、増殖や生存、分化、代謝など非常に多様な機能を調節することが知られています。現在、PKBの酵素活性をOn/Offする仕組みについてはかなり明らかにされていますが、これだけではPKB作用の多様性を説明できず、PKBの働きを複雑化する仕組みが存在すると考えられています。また、PKBの異常ががんの発症に関与することから、PKBはがん治療のターゲットとしても注目されています。当研究室では動物培養細胞を用いてPKB作用の多様性を生み出すメカニズムを解析し、PKBによる細胞の調節機構の解明を目指しています。この研究を通じて生命への理解を深めるとともに、がんの発症機構の解明や治療法の開発へとつながる応用研究へと発展させたいと考えています。

地域連携 地元野草等の植物力を発掘して地域貢献へ

今回は、現在進めている三次市役所作木支所と本学との地域戦略協働プロジェクト「野草等の地域資源を活用した入浴剤の開発研究」について紹介します。本プロジェクトでは、平成30年4月に開業を予定している「江の川カヌー公園さくぎ」の入浴施設を、魅力と特色あふれるものにし、という強い思いを具体的な形にすべく、「地元で入手できる植物素材」を用いた入浴剤または芳香剤の試作や評価に取り組んでいます。地域の皆様から情報等の提供をいただきながら、春から夏にかけてヒノキ、クマザサ、ショウブ、シソなど複数の植物素材を集めました。また、カヌー公園を活用した夏合宿を行い、留学生を含む本学学生も一丸となって、それぞれの素材の魅力を十分に引き出すためのアイデアを検討しました。写真は調合した植物素材を浮かべた足湯です。この様子は地元ケーブルTVや新聞で紹介いただきました。

さらにユズジュースやワイン等の三次ご当地商品製造後の植物組織を新たな原料として活用します。今後は「香り」と「空間」の演出をキーワードとして、地域の皆様に本プロジェクトの研究成果の発信ができるように、試作と評価に努めていきます。



三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

国際交流

馬偕醫學院（台湾）との国際交流協定締結

11月23日～24日、台湾の馬偕醫學院 Mackay medical collegeに中村学長、小野保健福祉学部長、コミュニケーション障害学科・看護学科の教員が訪問しました。

訪問1日目は、お互いの教員による自己紹介から始まり、両大学の紹介、国際交流協定の調印式が行われました。その後、会場を移して懇親会があり、和やかに親睦を深めることができました。



2日目の午前中は馬偕醫學院の教員による研究発表の後、学内の教育・研究施設を見学しました。午後は本学教員による研究発表が行われ、お互いの研究について意見交換をしました。



馬偕醫學院は医学系課程（医学科）、看護学系課程（看護学科）、聴力暨語言治療学系課程の3課程から構成される医学系大学です。

聴力暨語言治療学系課程は、本学ではコミュニケーション障害学科（言語聴覚士養成課程）に相当します。馬偕醫學院の聴力暨語言治療学系課程と本学コミュニケーション障害学科とは、これまでもお互いの大学に教員や学生が訪問するなどして、着実に交流を深めてきました。

今回の協定締結によって、今後も教育・学術面のパートナーとしての関係がますます深まっていくものと思われます。



生涯学習

三原シティカレッジ2017

三原シティカレッジは、本学教員の研究成果をより多くの一般市民に広め、日々の生活や今後の人生に役立てることを目的として開催しており、毎年多くの市民が参加しています。今年度は一般市民を対象にした「市民講座」9講座と、小中学生を対象にした「夏休み特別企画」5講座を開催し、延べ910名の方々が受講されました。

「すこやか子育て講座」

本学看護学科の教員が中心となり、離乳食の進め方やスキンケア・ベビーマッサージの方法等を紹介しました。保護者が講座を受講している間は、ボランティアの学生が子どものお世話を担当し、「講義に集中できた」「相談や他の参加者との会話がゆっくりできた」と喜んでいただきました。



「“いい感じ”の自分とこころの健康づくり」

“いい感じ”の自分でいるために、参加者同士で交流をしながら、こころの健康とケアやマネジメントについて学びました。全3回の講座を通して、自身

のストレスに対する傾向を知り、自分を大切にするための元気回復行動プラン（WRAP）を考えました。「リラックスして参加できる講座で楽しかった」「今後の生活に活かしたい」等の感想をいただきました。



「あつまれ！ナースのたまご！」

小学校1年生から3年生を対象に講座を開講しました。赤ちゃんの人形などを使って、生命の誕生やお世話の仕方について学びました。体温計や聴診器を使った体調確認体験では、子どもたちは白衣を着て意欲的に活動に取り組んでおり、「看護師さんになった気分が嬉しい」、「実際に仕事を体験して、将来看護師になってみたいと思った」等、とても喜んでいました。



「オンリーワン工作～自由に楽しく作ろう～」

陶芸、木工、裁縫など、自分の作りたいものを自由に作る毎年大変人気の高い講座です。材料や工程を一人ひとりが考えて、ひとつの作品の完成を目指します。別々の小学校に通う子どもたちが道具を貸し合ったり協力したり、全4回の講座を通して仲良くなる姿も見られました。



三原シティカレッジは、平成30年度も開催予定です。6月以降に本学HPでご案内しますので、興味のある方はぜひご参加ください。三原市以外の方も申し込みを受け付けています。

研究紹介

子どもの肥満と生活習慣，支援教育に関する研究

保健福祉学部作業療法学科 講師 吉岡和哉

子どもの肥満と生活習慣に関する研究

肥満と聞くと、成人をイメージする方が多いと思います。しかし、肥満は大人だけの問題ではなく子どもでも問題となっています。肥満は年齢を問わず健康寿命が短くなる疾病につながるリスクの1つとして報告されています。私は研究の中で、肥満のある子どもの生活習慣の改善について作業療法の視点から取り組んでいます。研究では、子どもの日常生活の中の活動（食事や運動、友だちとの付き合い等）がどのような意味をもち影響しているかなど一緒に会話をしながら考えます。また、将来どのような生活をしたかイメージしたり、自分らしい生活が送れるように今できることを意識できるために、必要な介入方法について研究を行っています。



支援教育に関する研究

作業療法士の対象領域の1つに学校があります。学校は子どもたちが普段過ごす場所であり、医療とは違った教育分野になります。近年では、教育の中で作業療法士の専門知識を活用し、学校の教員の困りごとや幼児・児童・生徒の困り感など、学校環境に適応できない内容に対する、相談等連携する機会が増加しています。

研究の中で作業療法士が学校など教育機関で連携するために必要なスキルや知識、準備について調査を行っています。学校と作業療法士の多職種連携がスムーズに行えることで、子どもたちにとってより良い教員環境につながると考えております。作業療法士が教育機関と連携するために質・量ともに必要なことを明確にできるよう取り組んでいます。

ご報告

第15回脳を見るシンポジウム in 三原

今年は「医工連携による脳機能再獲得の挑戦！」と題して開催し、医療福祉機器の開発、ロボットスーツHAL®による機能改善治療、音楽療法を交えながら、脳に関する先進的で身近な幅広いテーマで4名のシンポジストからご講演をいただきました。毎年、地域の皆様や医療福祉専門職の方々などに多数ご参加いただいています。



平成30年度 公開講座のご案内

本学では、地域のみなさまの生涯学習に貢献するため、公開講座を企画・提供しています。平成30年度は、広島・庄原・三原の各キャンパスで次のような講座を開講する予定です。ぜひご参加ください。

担当キャンパス	講座名	開催月	講座名	開催月
広島	『ロミオとジュリエット』の舞台を10倍楽しむために	5月	ねこの不思議	5～6月
	即戦力となる人工知能人材育成のためのプログラミング講座	5～6月	頭と体をフル活用！ 簡単エクササイズ講座	5又は6月
	ひろしま学を考える	7月	唐物をめぐる文化誌	7月
	現代アメリカ文学リーダーズ・クラブ	7月	中世の瀬戸内海	7～8月
	ひろしまの英学：明治期の英語教科書を読む	8月	高校生のためのAI・IoTプログラミング教室	8月
	お子さま連れで学べるマネジメント基礎講座	8～9月	情報セキュリティマネジメント試験対策講座	9月
	健康づくりのための運動	10月	憲法を学ぶ	10月
	大学・学び直し塾－情報学の今－	10月	言語を通じて世界を知る	10月
	読み切り文学講座	10～11月	健康科学連続講座	11～12月
	経営情報学連続講座	3月	ひろしまをめぐる鉄の歴史	未定
庄原	庄原市民公開講座（前期）	6～7月	食品を分析する・表示する	7月
	おもしろぶつり実験	8月	楽な介護とセルフケアのために	10月
	庄原市民公開講座（後期）	10～11月	平成30年度言語文化生涯学習講座	3月
三原	ワークショップで学ぶ プレイバックシアターの手法	7月	家族支援の実践実技講座	7月
	KJ法を活用したワークショップの方法を身につけよう！	7月	医療処置を受ける子どもと家族への小児介護ケアモデル実践講座	9月
	地域包括ケア構築に向けた地域への働きかけの留意点とその進め方	9月	子ども虐待の発生要因とその対処プログラム	10月
	手話言語を用いた面接技術講座	12月		

各講座の詳細は、募集開始後にホームページでご案内しますのでご覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/koukai-kouza/>

また、講座のお問い合わせは担当キャンパスの地域連携センターにお願いします。

地域連携センター報は本学ホームページにバックナンバーを掲載していますので、ご活用ください。

地域連携センターの活動についても、あわせてご覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

編集後記

地域連携センター第26号をお届けします。本号では、保健福祉分野や教育の現場で活用されているプレイバックシアターについて講演が行われた「第18回広島保健福祉学会学術大会」の様子をご紹介させていただきました。各キャンパスでの地域貢献に関する活動、国際交流、研究者紹介なども載せています。

今後も地域の皆様のご期待に応えられるように様々な事業に取り組んでいきますので、引き続きご支援とご協力をお願いします。

編集発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

電話 (082) 251-9534 / E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター

〒727-0023 広島県庄原市七塚町5562番地

電話 (0824) 74-1704 / E-mail: gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター [本号編集担当]

〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号

電話 (0848) 60-1200 / E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp